



かんがえてみよう

# 子どもの行動を3つに分けて対応を考えてみる

① 受け止める行動	② 静観する行動	③ 介入する行動
<p>ほめる・認める 共感する・受容する</p>	<p>スルーする・大目に見る 気にしない・取り合わない 一声かける程度にする</p>	<p>注意する・制限・環境調整 タイムアウト・ホールド 個別具体的に対応を考える</p>



# 子どもの行動を3つに分けて対応を考えてみる

① 受け止める行動	② 静観する行動	③ 介入する行動
<p>ほめる・認める</p> <p>共感する・受容する</p>	<p>スルーする・大目に見る</p> <p>気にしない・取り合わない</p> <p>一声かける程度にする</p>	<p>注意する・制限・環境調整</p> <p>タイムアウト・ホールド</p> <p>個別具体的に対応を考える</p>



かいせつ

この技法は「**ペアレントトレーニング (ペアトレ)**」という、養育者が子どもに関わりやすい具体的で効果的な対応を身に付け、悪循環を断ち、日常を穏やかにおくれるようになるためのプログラムを一部アレンジしたもの。



ほうほう

- ◇子どもの様々な行動をこの3つの基準で分類して対応を整理する。
- ◇例えば、ある子の「学習中に姿勢が悪い」という行動は1、2、3のどれに入れるのかを考える。
- ◇この時の大事な考え方の1つとして、3が多くなりすぎると、子どもとの関係が悪化しやすくなるため、3に入れるものを厳選すること。
- ◇「1つ叱って3つ褒め、あとの6つはほうっておけ」という言葉があり、その言葉の通り、1に入る行動をたくさん見つけて書き出すこと、3の3倍の量を1に書く、ということを目指にする。
- ◇選別基準はその時々で変動するものであり、例えば「ごめんねと謝るが態度が良くない」という場合、「ごめんねと謝る」ことについては、「1受け止める行動」(=ほめる行動)に入れる。一方で、「態度が良くない」ことをどう扱うかがポイントで、一応は謝っているから良しとして、「2静観する行動」(=大目に見る行動)に入れる場合もあれば、社会性を育てる観点から「3介入する行動」(=注意する行動)に入れる場合もある。1、2、3のバランスや、どの程度の要求水準を貸すことがその子にとって適切なのかで判断する。

**(最優先は、3が多くなりすぎないこと!)**

# [例]



## 子どもの行動を3つに分けて対応を考えてみる

① 受け止める行動	② 静観する行動	③ 介入する行動
<p>ほめる・認める 共感する・受容する</p>	<p>スルーする・大目に見る 気にしない・取り合わない 一声かける程度にする</p>	<p>注意する・制限・環境調整 タイムアウト・ホールド 個別具体的に対応を考える</p>
<p>走らずに歩いて移動する 声かけを聞いてすぐに行動する おもちゃを片付ける 注意されたことをすぐにやめる 注意された行動をしない 注意されて素直にあやまる 友だちに優しくする 自分から手洗いをする 授業中や食事に座っている くつをそろえる ごはんを完食する</p>	<p>食事のマナーは大目に見る 着席中、姿勢が悪くても大目に見る 手洗いが雑でもやっていればOKとする 学習のハードを下げ、算数は1ページでも取り組んだら良しとする 職員への挑発的な言葉はスルーする</p>	<p>授業中や食事の離席 他児へのちょっかい 他児への暴言・暴力</p> <p>ここに分類された行動に対して 「問題行動への対応方法を考えるシート」 を使って個別具体的な対応を考える</p>